

2013年3月期 第1四半期業績概要

2012年 8月1日

アンリツ株式会社
代表取締役社長 橋本 裕一



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu Discover What's Possible™

1

Financial Results FY2012Q1
Copyright© ANRITSU

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目 次

I . 2013年3月期 第1四半期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

I -3. 2013年3月期 通期見通し

II . 国際会計基準と経営力強化

II -1. 国際会計基準IFRSの導入

II -2. ユーロ円建転換社債の繰上げ償還

II -3. 中長期の財務体質改善目標

Appendix

I-1. 事業概要 - 事業セグメントの呼称と事業内容 -

セグメント	サブセグメント	事業内容
計測	モバイル市場	LTE、3Gなどの携帯端末、チップセットの開発・製造・保守用テストなど
	ネットワーク・インフラ市場	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線および無線ネットワークの敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど
	エレクトロニクス市場	無線設備、電子部品等の開発・製造用テスト、汎用テストなど
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機、電気機器プリント板向け精密計測など
その他		通信機器、通信応用システム、光デバイス、物流、厚生サービス、不動産賃貸など

(注) 2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。

2012年3月期 売上比率	計測 75%			産業機械 15%	その他 10%
	モバイル 約45%	ネットワーク・インフラ 約30%	エレクトロニクス 約25%		

I-2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

モバイルブロードバンドサービスを成長ドライバとして 計測事業が順調に推移

セグメント	2013年3月期 第1四半期の状況
計測	・モバイル関連の計測需要が継続 (スマートフォン向け開発/製造用計測など) ・エレクトロニクス関連の汎用計測は低調
産業機械	国内外ともに堅調
その他	総じて堅調に推移

第1四半期の業績は、総じて前年度と同様の傾向、特徴が続きました。すなわち2011年度に飛躍的に伸長したモバイル計測事業が当第1四半期も順調に推移したことです。それに比して、産業用エレクトロニクス市場は日本市場を除き、設備投資にブレーキがかかるなど、マクロ経済の停滞を反映した状況になりました。

モバイル計測市場の市場状況は次のとおりです。

- (1) スマートフォンの新しいモデルの開発競争、販売競争で活発な動きを見せる携帯端末製造市場は、前年同期を上回る積極的な設備投資がみられました。とりわけ、スマートフォンの新モデルの投入で巻き返しを図る日本の携帯端末ベンダーは、生産設備の更新を図りました。
- (2) 第4世代の新たな超高速モバイル通信方式、LTE方式の研究開発用の計測システムは、チップセット・ベンダー、オペレーターからの需要が拡大しました。

産業機械事業は、国内外とも前年度並みで推移しました。

その他事業の情報通信事業なども、前年度と同様の動きになっています。

I-2. 連結決算概要 - 第1四半期業績サマリー -

大幅な増収増益を達成

(単位: 億円)

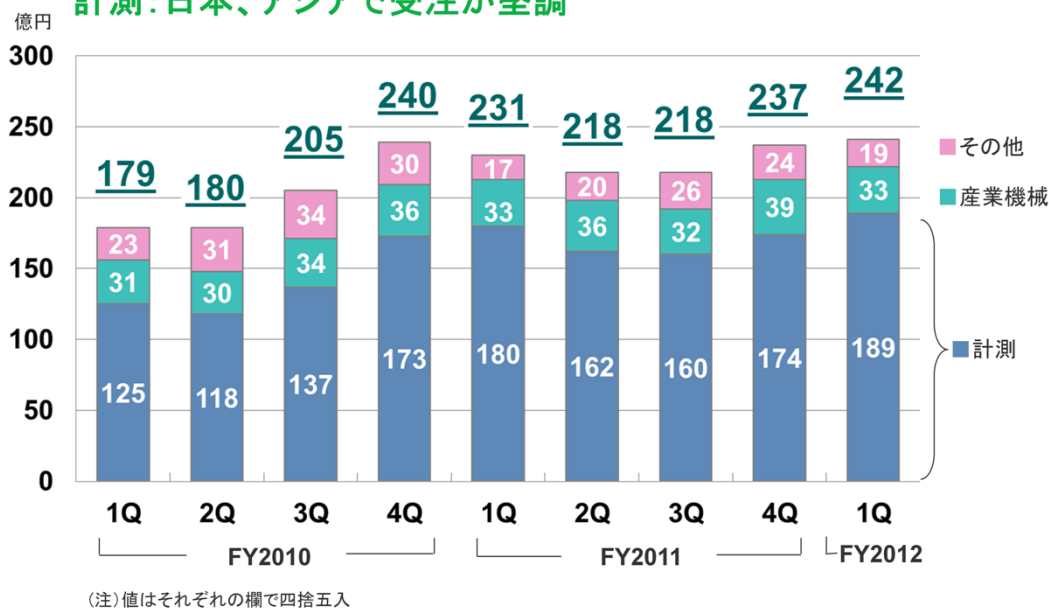
	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	231	242	11	5%
売上高	196	216	20	10%
営業利益	28	40	12	43%
税引前利益	25	36	11	44%
当期利益	17	25	8	47%
当期包括利益	15	17	2	16%
フリーキャッシュフロー	32	41	9	28%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業の大幅な増収増益によって、グループ全体としても、営業利益は40億円、税引前利益は36億円、当期利益は25億円と、それぞれ前年同期比で大幅な増益となりました。

I-2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

計測：日本、アジアで受注が堅調



Anritsu Discover What's Possible™

7

Financial Results FY2012Q1
Copyright© ANRITSU

四半期単位の計測事業の受注高は、2010年度・第3四半期から7四半期連続して、前年同四半期を上回って推移しました。とりわけ、計測事業が、リーマンショック以降、最高の四半期受注高となる189億円(前期比+5%)を記録しました。

I-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

計測事業のモバイル関連ビジネスがけん引

(単位: 億円)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測	売上高	151	170	19	12%
	営業利益	29	40	11	39%
産業機械	売上高	28	29	1	1%
	営業利益	△0	△0	0	-
その他 (含: 内部消去)	売上高	17	18	1	6%
	営業利益	△1	△0	1	-
合計	売上高	196	216	20	10%
	営業利益	28	40	12	43%

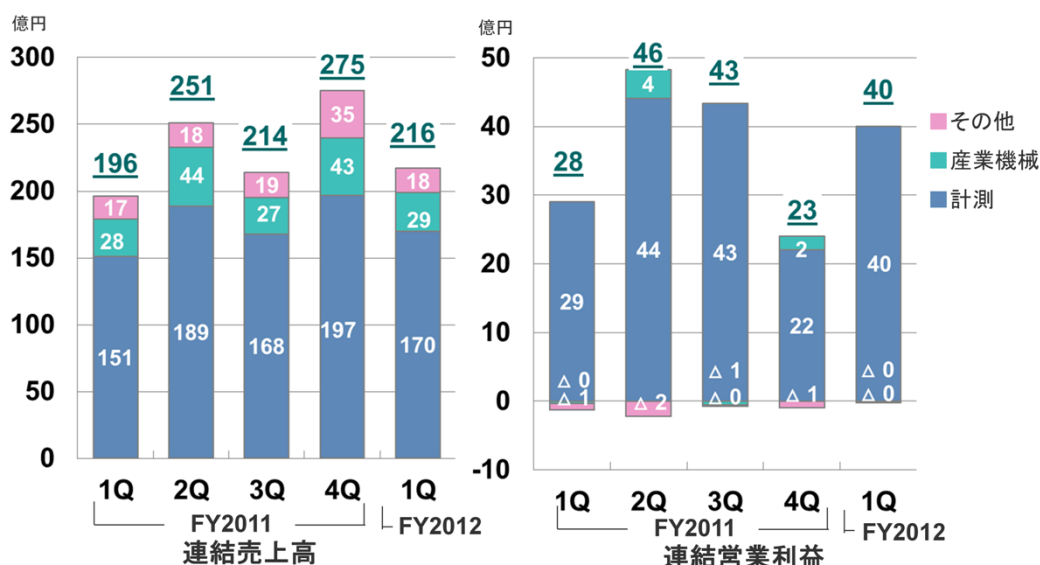
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

計測事業は、先述のとおり、前年同期比12%の増収となる売上高170億円を達成し、営業利益40億円、営業利益率23.6%の成果となりました。

産業機械事業は、売上高、営業利益とも、ほぼ前年同期並みの水準でした。

I-2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業損益 -

連結営業利益率: 18.5%、計測営業利益率: 23.6%



Anritsu Discover What's Possible™

9

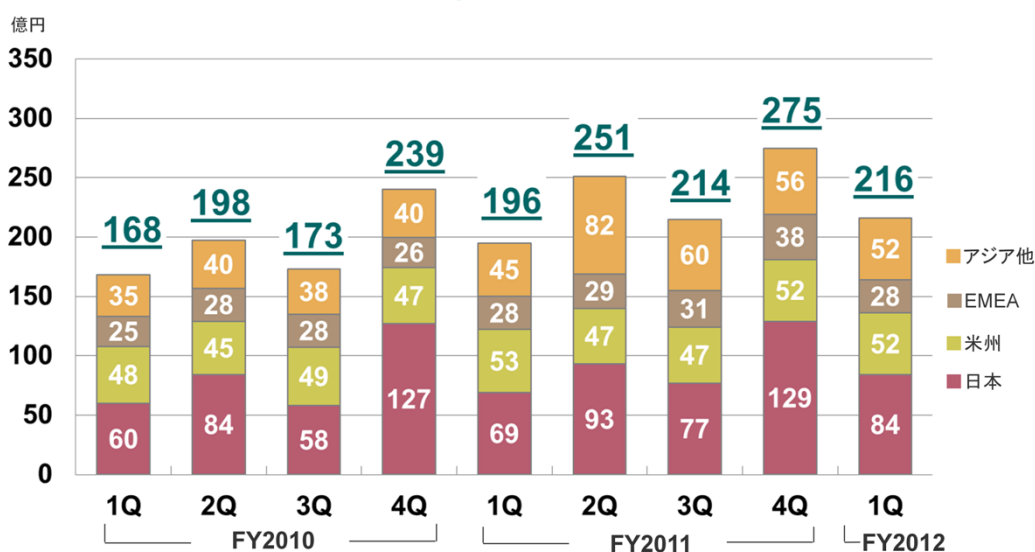
Financial Results FY2012Q1
Copyright© ANRITSU

当第1四半期の連結営業利益率は18.5%、
計測事業の営業利益率は23.6%でした。

なお、2011年度の第2、第3、第4の各四半期の数値は、監査前の国際会計基準の値を参考として掲載してあります。

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

日本とアジアが、対前年で増収



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入、FY2011 2Q～4QはIFRS未監査(参考)

Anritsu Discover What's Possible™

10

Financial Results FY2012Q1
Copyright© ANRITSU

日本市場、アジア市場が前年同期比で伸長しました。

- (1) 米州は、LTE関連市場が引き続いて活発である一方、無線基地局の建設保守市場への投資も上向く傾向にありました。
- (2) EMEAは、有力な携帯端末ベンダーやチップセット・ベンダーなどの人員削減や開発拠点、製造サイトの閉鎖など厳しい経済状況が続く状況にもかかわらず、前年同期並みの水準を確保しています。
- (3) アジア市場は、携帯端末の製造市場を軸に前年同期より順調に増加しました。
- (4) 日本市場は、携帯端末ベンダーのスマートフォンの新モデルの投入やオペレーターの無線ネットワークの整備への積極的な投資があり、順調に増加しました。

I-2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

着実にキャッシュフローを創出

内訳

単位: 億円 △減少

FY2012 1Q

①営業CF: 50億円

②投資CF: △9億円

③財務CF: △15億円

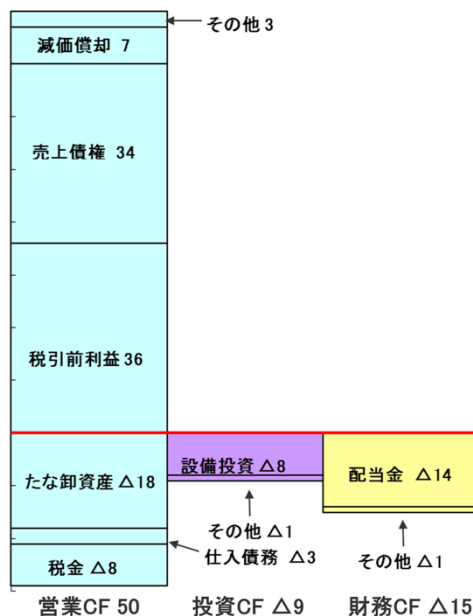
フリーキャッシュフロー

(①+②): 41億円

現金同等物期末残高

416億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは50億円の資金獲得となり、営業キャッシュフロー・マージンは23.1%(前年同期18.2%)となりました。

これの主な要因は、第1四半期の特徴である前年度末の売上債権の回収に加えて、四半期利益の増加によるものです。設備投資の8億円は、主に計測事業の強化や厚木地区の再開発などを目的とするものです。

その結果、フリー・キャッシュフローは41億円の資金獲得となりました。

I -3. 2013年3月期 通期見通し(連結) : IFRS

(単位: 億円)

		2012/3期	2013/3期		
		前期実績 (IFRS監査済)	通期予想 (IFRS)	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		936	945	9	1%
営業利益		140	155	15	11%
税前利益		131	145	14	11%
当期利益		80	100	20	25%
計測	売上高	706	700	△ 6	△ 1%
	営業利益	138	140	2	1%
産業機械	売上高	142	150	8	6%
	営業利益	6	10	4	75%
その他*	売上高	89	95	6	7%
	営業利益	△ 4	5	9	-

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=80円
1ユーロ=100円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2013/3月期から情報通信事業セグメントを、その他セグメントに統合しています。

2012年度の通期業績の見通しは、4月に発表した予想値と同じです。

なお、2011年度の実績値は監査済みの国際会計基準の値です。

第1四半期の計測事業の受注高は、前年同期比で5%伸びましたが、第2四半期の受注動向は前年同期並みを見込んでいます。一方で、6月末の受注残高が前年6月末比で41億円減少の166億円であるため、当上半期の売上高、利益はほぼ前年度上半期並みを見込みます。

2012年度前半の経済環境は、欧州債務危機の出口が見えないまま、金融不安の増大、各国景気見通しの前年割れなどによって、設備投資動向に不透明感が増しています。このように、厳しい事業環境が予測されますが、年初の業績見通しの達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

Ⅱ．国際会計基準と経営力強化

Ⅱ-1．国際会計基準IFRSの導入

Ⅱ-2．ユーロ円建転換社債の繰上げ償還

Ⅱ-3．中長期の財務体質改善目標

Ⅱ-1. 国際会計基準IFRSの導入

透明性を拡大し、新たな財務体質の改善目標にチャレンジ

当四半期より
IFRSで報告

- ・ 世界標準での開示
- ・ グローバルな市場・顧客・競争に対応
- ・ リスクを前倒して認識

純資産額
の減少

- ・ 純資産: 85億円減少
-退職給付会計: △93億円
-R&D資産化 等
- ・ 自己資本比率の低下(48.5%→42.1%)
(2012.3.31現在の影響額)

財務体質
強化促進

- ・ ROE20%以上の実現
- ・ 自己資本比率の一層の改善
- ・ 格付A復帰へ

アンリツグループは、2012年4月1日から連結決算の会計基準として国際会計基準IFRSを適用しています。

国際会計基準を早期に任意適用する主な理由は、

市場、お客さま、競合メーカーなど、事業の主要な要素がグローバルであることによります。そのような事業環境から、世界標準の財務会計をベースにした経営システムを構築する必要性がありました。

国際会計基準の導入に伴い、連結決算に影響する主な項目は

- ・退職給付会計の数理計算上の未認識債務を一括して認識すること
- ・試験研究費の一部を費用処理から繰延資産の計上に変更すること
- ・為替換算調整勘定を利益剰余金に組み入れるために生じる株主資本の減額

などです。とりわけ退職給付債務を顕在化することにより、純資産の大幅な減額となり、自己資本比率が、2012年3月末現在で、48.5%から42.1%まで低下することになりました。一方で簿外債務を認識することにより、透明度の高い情報開示を行うことができます。その上で、アンリツは財務体質の健全化に一層の努力をまいります。

Ⅱ-2. ユーロ円建転換社債の繰上げ償還

社債残高 31億円 の『繰上償還の権利』を行使します

年月	転換価額	転換額	株式数
2011年3月			128,042,848 株
2012年3月	629.0円	61億円	+9,697,933 株
2012年6月	627.4円	7億4,000万円	+1,179,470 株
2012年9月 (見込み)	627.4円	31億6,000万円	+5,036,659 株
計* (見込み)		100億円	144,004,897 株

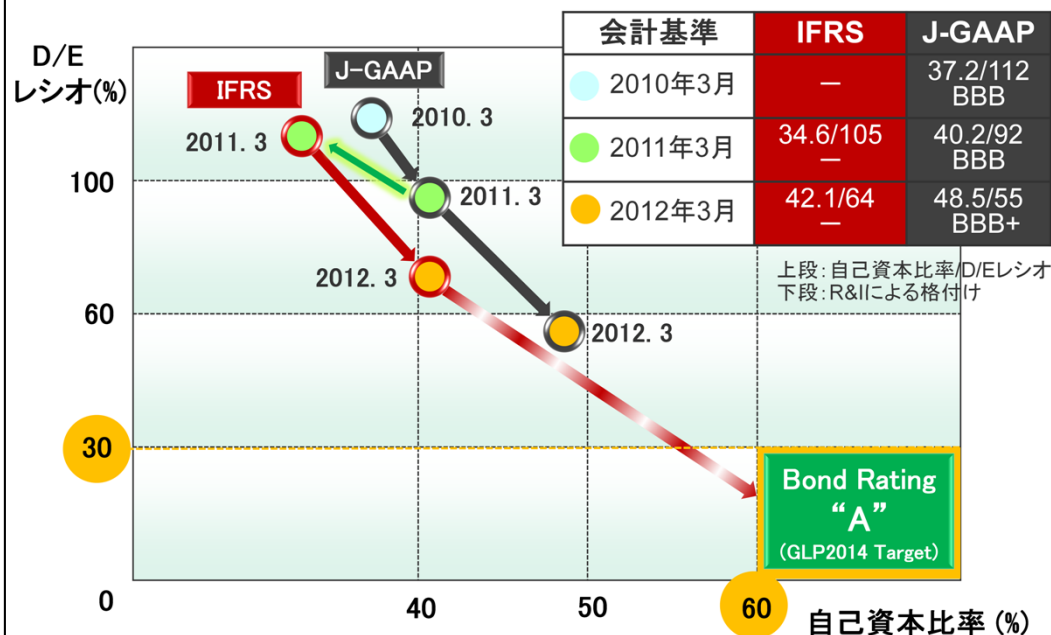
(注): 合計の株式数には、その他の新株予約権の行使による増加分も含まれます。

コールオプションの権利行使:

20 連続取引日(6月18日～7月13日)にわたり、転換価額の130%以上であったため、社債残高をその額面金額の100%で繰上償還する権利を行使します。

2010年9月に起債したユーロ円建て転換社債CB、100億円の株式への転換を促進するために、「コールオプション(繰り上げ償還)の権利」を行使します。2012年6月30日現在で、転換率68.4%となり、残高は31億6千万円です。当残高の株式への転換と通期見通しの達成によって、自己資本比率が改善し、財務体質の健全性が進むことが期待されます。

Ⅱ-3. 中長期の財務体質改善目標



Anritsu Discover What's Possible™

16

Financial Results FY2012Q1

Copyright© ANRITSU

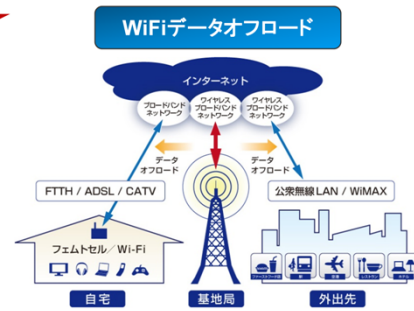
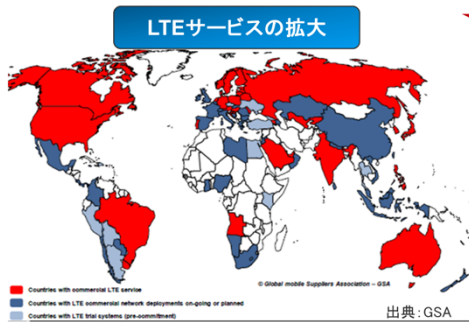
財務体質の健全化の重要な指標として、自己資本比率、D／Eレシオを取り上げて、日本基準ベースでの指標推移と国際会計基準ベースでの指標推移を対比して表示しました。なお格付け機関R&Iによって本年5月に格上げされた格付けランクBBB+には、会計基準変更の影響は織り込み済みです。アンリツは、国際会計基準の下、健全な財務体質の中長期目標とする、自己資本比率60%以上、D／Eレシオ30%以下に取り組んでいきます。

2020 VISION



株主・投資家のみなさまのご支援とご協力をお願いして、2012年度の最初となる第1四半期の業績報告とします。

Appendix (1) - モバイル市場の動向と5つのキーワード -



Anritsu Discover What's Possible™

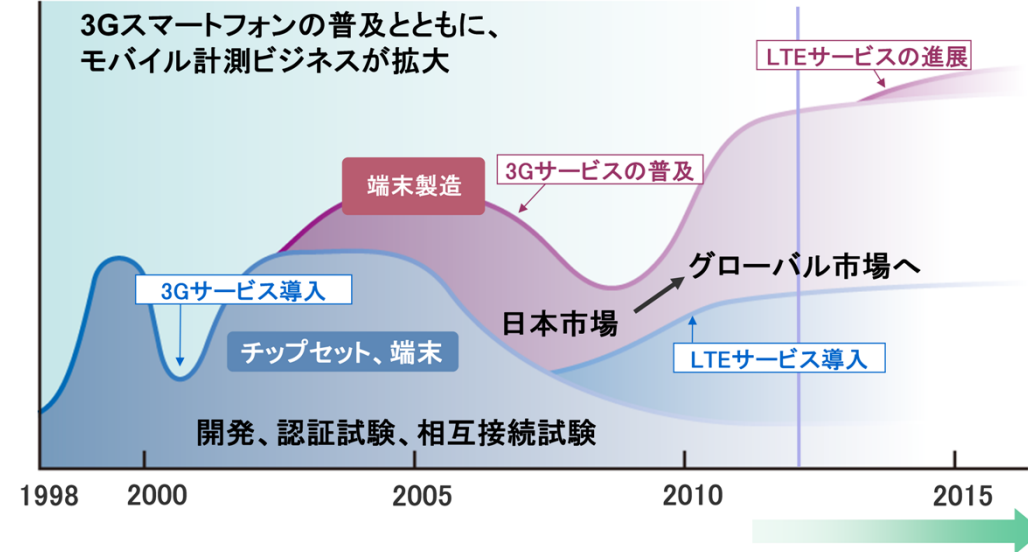
Appendix (2) – R&D・製造市場のモバイル計測ビジネスの相違 –

	R&D市場				端末製造市場	
	チップセット、端末の規格、方式開発			商用開発		
分野	コア開発	規格適合試験・相互接続試験	オペレータ受入試験	アプリ開発向けパフォーマンス試験 -スループット -消費電流、等	専用ワンボックステスタ	汎用計測器（専用ソフトウェア）
主要通信規格	LTE (FDD-LTE, TDD-LTE)			3G/LTE	2G/3G/3.5G (GSM/EDGE, CDMA, W-CDMA, HSPA, TD-SCDMA)	
顧客	チップセット/端末ベンダー	チップセット/端末ベンダー、テストハウス、通信事業者	テストハウス、通信事業者	端末ベンダー、アプリケーション開発事業者	端末ベンダー、EMS(elec. mfg. services)	
地域	米国, 欧州, 日本, 韓国, 中国				アジア	
製品						—

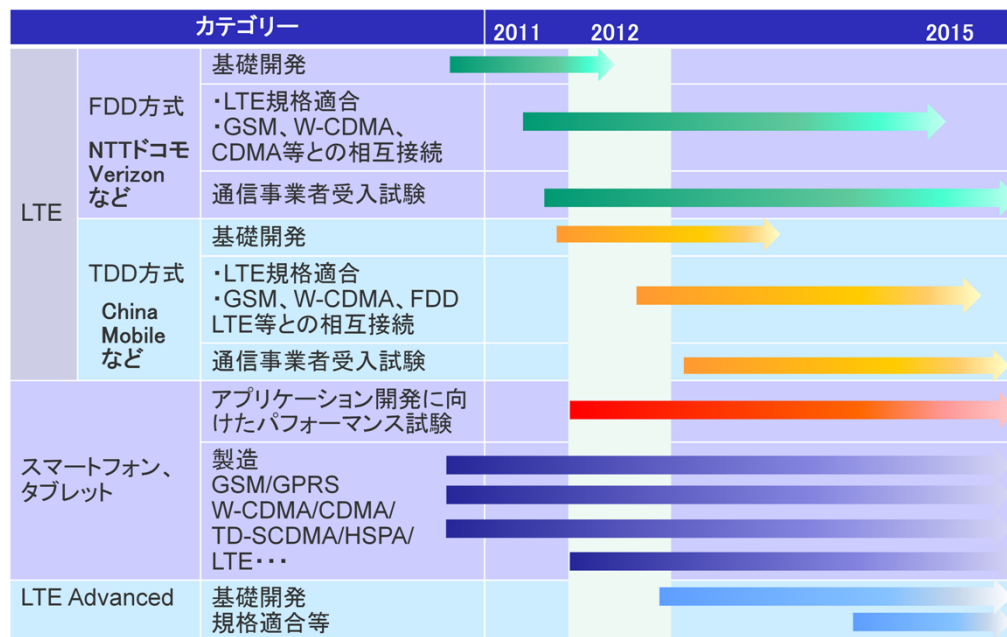
Appendix (3) - モバイル計測ビジネスのトレンド -

モバイル計測市場(当社推定):1,000-1,100億円

売上高 (製造:700-800億円、R&D:200-300億円)



Appendix (4) – モバイル分野計測ビジネスの現状と今後 –



Appendix(5) - 3ヵ年経営計画 GLP2014 目標数値 -

国際会計基準 IFRS

GLP2014

指標		FY2011	FY2012	FY2014
売上高		936 億円	945 億円	1,100 億円
営業利益		140 億円	155 億円	190 億円
当期利益		80 億円	100 億円	130 億円
ROE		19.5 %	20 %	20 %
ACE		52 億円	70 億円	90 億円
計測	売上高	706 億円	700 億円	800 億円
	営業利益	138 億円	140 億円	160 億円
産業機械	売上高	142 億円	150 億円	180 億円
	営業利益	6 億円	10 億円	15 億円

(注) ACE (Anritsu Capital-cost Evaluation) : 税引後営業利益－資本コスト

